

Report

第21回猿橋賞 永原裕子さん受賞す

永原裕子さん(東京大学大学院理学系研究科)が‘女性科学者に明るい未来をの会’より第21回猿橋賞を受賞しました。受賞研究題目は、「隕石や惑星物質の形成と進化(Origin and Evolution of Meteorites and Planetary Materials)」です。永原さんのコンドリュール研究,ならびに,冷却実験等の太陽系形成における先進的研究が評価され,惑星科学分野における初めての受賞につながりました。地球・惑星・天文の関連分野においても,地震学の石田瑞穂さん以来二人目という快挙です。

猿橋賞は,気象庁の気象研究所の研究員であった猿橋勝子さんが1980年に退官される際に,日本人の女性科学者を支援する賞の設立を発起したことに始まり,1981年より毎年一人ずつ授与されています。

猿橋賞贈呈式は,2001年5月26日霞ヶ関ビルの東海大学交友会館にて,100人近い参加者の中,和やかな雰囲気で行われました。まず,古在由秀会長より受賞理由の説明がありました。コンドリュール中にとけ残りの結晶を発見し,コンドリュール形成過程解明に貢献したこと,鉱物構成物質の蒸発・凝縮実験からコンドリュールの冷却速度の決定,消滅各種の年代測定からのコンドリュール形成期間の決定等,太陽系形成初期の物質解明に寄与されたこと等が話されました。古在会長が賞状ならびに副賞授与する際に,賞状が見当たらず,既受賞者が会場裏に賞状を探しに走り回るというハプニングもありました(贈呈式並びに懇親会等の企画・運営も,過去の受賞者の方々が中心に行っている)。

次に鳥海光弘氏(東京大学大学院新領域創生科学研究科)の紹介により,永原さんが約1時間にわたり受



写真1: 記念講演を行う永原裕子さん

賞記念講演を行いました。学生時代の思い出,地球科学との出会い,大学院時代の隕石研究との出会い,研究室における切磋琢磨する環境下でアイデアを享受されたこと等話をされ,コンドリュール観察から太陽系形成時の情報を紐解く手法,また,蒸発・凝縮実験から太陽系形成時の環境を推定することなどをわかりやすく説明され,今後の実験に関する展望についても触れられました。さらに,今回の受賞が同分野における若い女性の励みになればという希望を話されました。

引き続き,猿橋賞受賞者の記念英文書として,‘My Life - Twenty Japanese Women Scientists’(内田老鶴圃刊 300pp. 2,500円)と題した過去の受賞者のエッセイをまとめた本の出版記念会が行われ,猿橋さんご自身が,猿橋賞の由来から始まりこの本の発刊に至る経緯までをお話されました。(お年の割に健脚・滑舌で,とても若々しい方でした)

授賞式後の懇親会では,各界の有識者から祝辞が披露され,和やかなうちに授賞式ならびに祝賀会は終

了しました。男性社会の中で家庭を守りながら、常に世界の第一線で研究を推進され、かつ、若い女性研究者の育成にも力を入れられておられる永原さんの今回の受賞は、惑星科学会の若い女性研究者の大きな心の支えとなると思います。



写真2：20年後の猿橋賞受賞候補者(?)らと記念撮影

(文責 高田淑子, 宮城教育大学)